

胃がん 手術支援ロボットを用いた先進医療が承認されました

神奈川県初導入 最新型手術支援ロボット「ダビンチXi」による低侵襲治療を提供

平成28年11月17日、厚生労働省の先進医療技術審査部会において、済生会横浜市東部病院（所在地：神奈川県横浜市鶴見区、院長：三角隆彦）は、胃がんに対する手術支援ロボット「ダビンチ」を用いた腹腔鏡下手術を先進医療として行うことが承認されました。本先進医療は藤田保健衛生大学を基幹病院とし、当院を含め全国14施設（平成28年11月17日現在）が協力医療機関として認定されています。東日本では当院が4番目の施設となります。

【先進医療の概要】

先進医療名：内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下胃切除術

手術適応：根治切除が可能な胃がん（ステージⅠ又はⅡであって、内視鏡による検査の所見で内視鏡的胃粘膜切除の対象とならないと判断されたものに限る）

当院でのロボット手術について

平成24年11月にダビンチによる治療を開始して以来、泌尿器科、消化器外科、産婦人科において、すでに286件（平成28年9月現在）の症例実績を重ねてまいりました。現在は前立腺がん及び腎がんを中心として行っていますが、今回の先進医療承認により、胃がんにおいてもダビンチを用いた手術の増加が予想され、消化器領域でも患者さんの負担が少ない、高度な低侵襲治療の可能性が広がります。

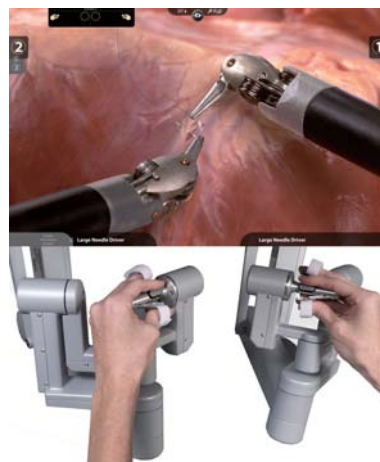
今回の承認によって、当院は東日本では埼玉県立がんセンター（埼玉県）、国立がん研究センター東病院（千葉県）、国際医療福祉大学病院（栃木県）に次ぐ4番目の協力医療機関となり、ロボット手術の普及と発展により一層の役割を担うこととなります。また、患者さんにとっては最新の低侵襲治療を受けることができるため、QOL（生活の質）向上に大きな貢献ができると期待されます。

※ダビンチとは…手術支援ロボット「ダビンチ」は、1990年代にアメリカで開発された最新鋭の内視鏡手術支援ロボットです。ロボット本体と操作台、助手用のモニタなどで構成され、ロボット本体には3本のアームと1本のカメラが装着されています。外科医は操作台に映し出される拡大された高解像度3次元立体画像を見ながら、両手、両足を使い、遠隔でアームの操作を行います。3本のアームは自分の手よりも自由かつ繊細な動きができ、また手ぶれを制御できるため、精密な作業が可能となります。患者さんにとっては小さな傷口のみで済むため、痛みが少なく、従来の開腹手術に比べ入院期間が短縮できます。



ロボット手術によるメリット

ダビンチを用いることにより、術者は自然な奥行き感が得られる3Dの高精細画像を見ながら遠隔でアームを操作し、人の手よりも繊細な動きができるため精緻で安全な手術が可能となります。腹腔鏡と同じく、患者さんにはメスやカメラを入れる小さな侵入口のみの傷で済むため、負担が少なく、また合併症のリスクを減らすことが期待できます。入院期間が短縮でき、早期の社会復帰が可能となることも大きな魅力といえます。



最新型手術支援ロボット「ダビンチXi」の導入について

本年10月に神奈川県で初となる、最新型手術支援ロボット「ダビンチXiサージカルシステム」を導入いたしました。この最新型ダビンチは、アームの細経化や関節機構の改善により、腹部および胸部における手術部位へのアクセスが容易になりました。また、従来型の「ダビンチSi」と比較し、より高画質な3次元立体画像（3D-HD画像）を搭載したことにより、鮮明な立体視野を得ることができ、さらに安全で確実な処置が可能となりました。こうした機能により、前立腺がんはもちろん、胃がん等の消化器領域の手術においてもさらなる活躍が期待されます。11月30日にはダビンチXiによる前立腺がんの初症例が行われ、無事に成功いたしました。



本件についてのお問い合わせ先

済生会横浜市東部病院 広報推進室 担当：今野・久松
電話：045-576-3000
〒230-8765 神奈川県横浜市鶴見区3丁目6番地1号
E-mail:koho@tobu.saiseikai.or.jp